天竺川の西岸を北行する。

三国橋を渡ったら、はじめの分岐を右へ進む。

写真：左）
新幹線の高架をくぐる。
淀川区木川西4丁目

写真：右）
阪急宝塚線・三国駅の東側を通る。

JR線を渡る踏切の名前は能勢街道踏切。

阪急の線路を渡ります。しばらく一本道です。

この埋め込み式のモニュメントは大阪府内の旧街道でよく見かけることができます。

ここを右へ。

すると商店街とぶつかりT字路を左へ。

アーケードを抜けた先で右へ。

信号を渡り向う側へ。

この信号の場所には能勢街道の石碑と案内板がありました。古地図には昔の道筋がしっかり描かれています。なお今回のこの付近の道筋はこの地図を参考にしています。

ここを左。

淀川を渡ってこの辺りより旧道が残っています。ここを右へ。

(木川水門倉庫の下)

ここを左へ。この付近は区画整理で痕跡を探すのは難しくなっています。

ここを右へ。斜めに進むこの道はおそらく当時のままの街道でしょう。

三国橋

三国橋が架かる以前はこの場所に国渡しがあり「太平記」に記されている南北朝の摂津・和田軍と箕浦佐木軍との争いの記事から、既に七年（一三六二）には既に存在していたと思われる。江戸期の渡し跡能勢・池田地方の特産品が集められ大坂市中へ荷を積み出す港として重要な地であった。明治期は中国街道から分岐した能勢街道と名付けられた道の一部で能勢妙見山に通じることから妙見街道とも呼ばれていた。

三国橋は明治以降神崎川に架けられた最初の橋である。明治六年（一八七三）に架設されたこの三国橋は仮橋で明治一一年になってから木橋的仮橋になった。橋長一八五・一m橋員三・六mと当時としては規模の大きな橋であった。その後昭和一四年に河川改修に伴って大規模な補修が行われ、橋長一三五・七m橋員五・五mと橋は短くなりわしかし橋員は広くなった。現在の三国橋は昭和三五年に完成したものでそれまでの木橋から鋼桁橋に架換された。

大阪市

西三国4丁目の三国橋の南で分岐するが、西側の道を進むと、すぐに三国の渡し跡がある、三国橋に出る。